

## 宇部市総合計画審議会（第3回）議事録

日 時 平成21年1月29日（木）13:00～15:00

場 所 宇部市役所第2・3・4委員会室

出席者

（委員）

倉重龍昌 光井一彦 玉重彰彦 横屋幸児 上村昭義  
中野朋子 有田信二郎 黒高満義 中野リエ子 藤重清美  
篠田佳代子 園 絹枝 松崎益徳 西村伸子 千葉泰久  
脇 和也 北野洋子 三原節子

（事務局）

総合政策部長 芥川貴久爾 同部次長 小川 徹  
新総合計画策定室長 廣中昭久 同室長補佐 河村真治 同室主査 篠原 功  
総合政策課主任 西田一雄 同課主任 福永俊明

（コンサルタント：ランドブレイン株式会社）

田中元清 石村壽浩

（宇部市新総合計画策定本部専門部会正副部会長）

都市開発部次長 内田英明 都市開発部次長 佐々木俊寿  
健康福祉部次長 岡田利三 健康福祉部次長 滝川洋子  
教 育 次 長 福重和巳

欠席者

（委員）

田辺龍夫 三浦房紀

一般傍聴者

なし

### 1 会長あいさつ

（事務局） 本日は、御多忙のところ、またお寒い中を御出席いただきまして、誠にありがとうございます。ただ今から、宇部市総合計画審議会の第3回会議を始めます。

本日は、全体会議の後に分科会を予定しており、その分科会には市の内部に設けました専門部会の正副部会長も参画させていただくことにしております。つきましては、本日の議題について説明を皆様と一緒に聴くため、傍聴させていただきますので、御了承願いたいと思います。

それでは、初めに、光井会長からごあいさつをお願いします。

（会 長） 前回の会議は12月3日でしたが、それから、世の中が急展開しまして、底が見えない泥沼に入っているような状態です。非常に気が重たくなるような日々だと

思います。

しかしながら、今回は世界全体が不況になっておりますので、対策もグローバルに行くということで、アメリカ、ヨーロッパ、中国、それぞれの国でかなりの金額を景気対策に投入しようという要求があります。日本では、先日、来年度の予算が通りまして、いよいよ実行に移すという段階にきております。これから3月末までには承認されるでしょう。

それを見ますと、47兆円ぐらいの景気対策が盛り込まれているようです。そうすると、かなりいろいろな意味でお金も入ってくることになると思われれます。今回は特に地方にお金を回そうという政策もあります。

我々としましては、きちんとした計画を立てて、そのような機にタイミングよく実行に移せたらと考えます。

現在、分科会もそれぞれ実施していただいております、お手元に議事録も配付されていますが、それぞれの委員が熱心に討議していただき、かなり進んできていると思います。今後も、最終案が立派なものになるように努力していただきたいと思っております。

今からここで全体の会議を行います、その後分科会がありますので、より具体的なものはより深く審議していただきたいと思っております。

(事務局)      ありがとうございます。では早速議事に入りたいと思っております。まず、報告ですが、本日は委員の半数以上の御出席をいただいておりますので、本会議は成立していることを報告します。会議の議長は、総合計画審議会条例第4条第1項の規定により、会長にお願いすることになっておりますので、よろしく申し上げます。

## 2 議 事

(会 長)      それでは、議事に入ります。本日の会議も公開とし、議事録も後日、市のホームページ上で公開することにしたいと思います。

まず、議事の1番目に入ります。「学生アンケート調査結果について」、事務局から説明をお願いします。

### (1) 学生アンケート調査結果について

(事務局)      説明の前に本日の資料の確認をします。委員の皆様方には、事前に資料1から資料4までの4種類の資料を送付しています。皆様よろしいでしょうか。

それから、本日お手元には当日配付として、先ほど会長のお話にもありましたが、これまでの会議の議事録を、遅くなりましたがお配りしております。それから、この後の分科会の会場の会場図も参考にお配りしています。

それでは、議事の1番目、学生アンケート調査結果についてですが、御存知のように、学生が多いという本市の特性を活かすために、学生の意識、考え方の傾

向をつかむことを目的に、市民意識調査とは別に大学等を通じて調査を実施したものです。調査結果の概要については、ランドブレイン社から説明します。

(コンサルタント) それでは、学生アンケート調査結果を報告します。まず、資料1の1頁を御覧ください。調査の概要をまとめています。

調査対象の学生としては、山口大学工学部、山口大学医学部、宇部フロンティア大学、宇部高専に所属する学生を対象としています。682件のサンプルを取っています。調査項目は資料の巻末を御覧ください。

2頁から調査結果をまとめています。

2頁では「回答者の属性」についてまとめています。出身者別の属性は、宇部市出身者が19.5%、県内のほかの市町が30.8%、県外が47.2%となっています。

3頁では宇部市への愛着についてまとめています。「愛着を感じる」が28.4%、「愛着は感じない」が28.3%と、ほぼ同数となっています。出身地別にみると、宇部市出身者は「愛着を感じる」が51.9%と多くなっています。

4頁では「宇部市の住みやすさ」についてまとめています。「住みやすい」は21.0%で、逆に「住みにくい」が31.7%と多くなっています。前回説明しました一般市民のアンケート調査では「住みやすい」が約60%でしたので、それと比較すると、学生の「住みやすい」という意識は低い状況です。特に、県内他市町出身者や県外・国外出身者は「住みやすい」という回答が少ない状況です。

5頁では「宇部市の住みやすいと思われる点」についてまとめています。全体の集計では、「道路がよく整備されている」30.1%、「自然環境がよい」25.8%、「住環境がよい」17.9%の順となっています。これは一般市民のアンケートの回答と同様の傾向を示しています。

6頁では「宇部市の住みにくいと思われる点」についてまとめています。全体の集計では、「公共交通が不便」65.8%、「娯楽・レジャー施設が不足している」54.8%、「買い物が不便」49.3%の順となっています。これも一般市民のアンケートの回答結果と同様の傾向を示しています。

ただし、4番目以降、「道路の整備が不十分」「治安がよくない」「住環境がよくない」が上位に挙がっていますが、これらは住みやすいと思われる点でも上位に挙がっております。これについては、学校の立地の場所や学生が住んでいる地域のような属性によって、ばらつきが出たものと思われれます。

7頁では「宇部市の強み」についてまとめています。自由記述式で質問しています。もっとも多かったのは「道路は整備されている、広い」、次いで「海や山などの自然が豊富である」「山口宇部空港がある」「常盤湖・常盤公園」の順になっています。

8頁では「宇部市の弱み」についてまとめています。最も多かったのは「公共交通機関（電車、バス）が不便、車がないと生活できない」、次いで「遊ぶ所、娯楽レジャー施設が少ない」「工場が多く、空気、水が汚く、環境が悪い」の順になっています。こういう弱みが影響して、先ほどの住みにくさにおいても同じような項目が上位にきていると思われれます。

9 頁では「学業以外の過ごし方」についてまとめています。最も多かったのが「アルバイト」48.5%、次いで「友人や恋人と過ごす」が44.1%となっています。

学業以外の過ごし方の中では、地域活動やボランティア活動、まちづくり活動の割合は少ないのですが、10 頁ではこの「地域活動やボランティア活動、まちづくり活動などへの参加意向」についてまとめています。「機会があれば参加したい」が36.8%と最も多く、逆に「参加したくない」も32.8%あります。

11 頁では「活動に参加していない、参加しない理由」についてまとめています。「時間がないから、忙しいから」が48.6%と最も多く、次いで「活動に関する情報（内容、日時など）がないから」が30.3%となっています。

いろいろな活動の情報を提供することで、学生の活動に参加する機会も若干増えてくるのではないかという傾向になっています。

12 頁では「今後（卒業後）の居留意向」についてまとめています。最も多かったのが「市外へ移り住み、宇部市では暮らさないとと思う」53.5%で、逆に「このまま、ずっと宇部市で暮らしたい」は5.4%に止まっています。

出身地別にみると、宇部市出身者は、「このまま、ずっと宇部市で暮らしたい」と「一度は、市外で住むと思うが、いずれは宇部市で暮らしたい」が合わせて約30%で、「市外へ移り住み、宇部市では暮らさないとと思う」とほぼ同数になっており、宇部市出身者でも、暮らしたいという意見と暮らさないとと思うという意見が半々という結果です。

13 頁では「卒業後に住み続けるために必要な条件」についてまとめています。最も多かったのが「買物や娯楽など余暇が楽しめる」63.3%です。

属性別にみると、宇部出身者においては、「就職先が豊富である」の回答が多くなっています。宇部市出身者が市外に移り住まずに市内で暮らそうとしたときに、就職先の問題が現実的な問題としても挙げられるという結果になっています。

14 頁では「「ふるさと納税」の活用意向」についてまとめています。これは、制度の周知の意味も含めてアンケート内容に盛り込みました。「「ふるさと納税」を知らない」が26.0%と最も多くなっていますが、「ぜひ応援したい」「内容によっては応援したい」が合わせて28%あります。宇部市出身者にその意向が高くなっていますが、宇部市出身者以外でもその意向は約30%はあります。

15 頁では「優先して実施すべき施策」についてまとめています。最も多かったのが「地域の中心都市としての機能や生活環境を整備する施策」43.3%で、次いで「産業を発展させ経済活動を活発させる施策」22.3%、「自然や地球環境の保全に取り組む施策」20.4%の順になっています。

16 頁では自由意見としてその他の意見をまとめていますので御覧ください。

やや足早になりましたが、以上で説明を終わります。現状のみの説明となりましたが、このアンケート結果に前回説明した市民アンケートや基礎調査と合わせて分析を加えたものを後ほど説明したいと考えます。

(会 長)      ありがとうございます。調査件数の682件は、全体の学生数ではどのくらいの割合になるのですか。

(事務局) このたびの調査は、今から就職を考えるとときに学生がどのような意識でいるかを質問するために3年生だけを対象として行いました。1、2年生はまだ学生生活を謳歌している状況と考えられるため、また、4年生は、10月から11月にかけて調査のため、既にほぼ就職先も決まっている状況と考えられるために調査対象から外しております。

市全体で学生数は3,000人から4,000人程度と思われませんが、3年生に限って言えば7、8割の学生の協力をいただいたと考えています。

(会長) 学生がいることによって宇部市にどのくらいの経済効果があるのかという数値を出してもらいたいと思います。学生の希望を実現するためにどの程度の予算までであればやらざるを得ないということを考える目安にもなります。今後事務局に調査をお願いしたいと思います。

では、皆さん、質問がありましたらお願いします。

(委員) 12頁の「今後(卒業後)の居留意向」で、宇部市出身者の「このまま、ずっと宇部市で暮らしたい」と「一度は、市外で住むと思うが、いずれは宇部市で暮らしたい」の意向が合わせて約30%あるのは、結構高いという印象を受けました。

これで、よその出身者が同じように考えていることをうまく読み込むことができれば、とんとんぐらいになると思わないではないのですが、どういう指向があって、どういうことをしたいから、この地域にずっといたいと考える、そういう分析はできるのですか。

いろいろと理由はあるのですが、個人の属性としての理由、つまり、どういう方向を指向している人がこの地域に住みたいと思ひ、どういう指向の人はこの地域に住みたいと思わないとか、そんなことは分からないのですか。

(コンサルタント) 今回、属性としては学校、性別、出身地別に集計しています。御指摘のとおり、どういう指向を持った人が住み着きたいと考えているかというところまで分析して、そういう人を対象にすることを考えることは、今後取り組む方向としては必要と考えますが、今回のアンケート調査ではそこまでは把握できていない状況です。

(委員) 今後、この宇部が目指すまちに、どういう特徴、どういう人たち、どういう職業、考え方とか、何かそういう傾向があれば、そこを活かす、強いところを強く、特徴があるところを活かすというのもひとつの手かもしれません。

(コンサルタント) その点については、このアンケート結果だけではなく、ほかの調査の結果も踏まえて、どのような強みを活かして若者の流出を防ごうとか、住み続けられるまちをつくらうとか、そういう考えで分析もまとめていますので、また、そこで御意見をいただければと考えます。

- (会 長) それでは、この議題については、これくらいで終わりたいと思います。
- ただ、私が非常に興味を持って、知る必要があると思っていますのが、先ほど言いましたように、学生がどのくらいお金を落として、市がそれに対してどのくらいお金を使っているのか、その収支です。
- 学生が使う以上に市がお金をつぎ込んでいるのか、学生に使うだけ使わせて何も施策をしていないのか、そこが非常に大切なことなので、そのバランス、収支を、おおよそで差し支えありませんから、次回報告してください。例えば4,000人の学生が年間40億円ぐらいのお金を宇部市に落として、それに対してどのくらい税金が入って、市が学生のためにどのくらい施策、施設などをやっているか、この程度で差し支えありません。
- それでは、次の議事「認知度調査結果について」、事務局から説明をお願いします。

## (2) 認知度調査結果について

- (事 務 局) 認知度調査結果については、このたび初めて実施した調査で、宇部市の認知度やイメージについて、全国的にインターネットを利用して調査したものです。それでは調査結果の概要については、ランドブレイン社から説明します。

- (コンサルタント) では、引き続き説明します。今説明しました学生アンケート調査、そして前回説明しました市民意識調査は、宇部市に住んでいる人の意向調査でしたが、宇部市以外に住んでいる人からみて宇部市はどうかということ認知度調査として行いました。

調査の対象としては、全国の18歳以上の方を対象としています。住んでいる地域によって意向が違うかもしれませんので、調査サンプルとしては、近隣県の福岡県や広島県に住んでいる人から200サンプル、山口宇部空港があることからリンクしている首都圏の東京都、埼玉県、神奈川県、千葉県から200サンプル、その他の都道府県から400サンプル、合計800サンプルを回収しております。

調査方法としては、インターネットによる調査です。宇部市を知っている人、知らない人を問わず、全国無作為による調査のため、あまり細かいことを質問することはできていないのですが、宇部市の印象、外からみてどのようなイメージを持っているかという調査結果になっています。

3頁では「回答者の属性」についてまとめています。男女がほぼ半々で、回答者の年齢別分布をグラフに示しています。

4頁では「宇部市への来訪経験・認知度」についてまとめています。全体では、「名前は知っているが、行ったことはない」が68.3%と最も多く、「かつて住んでいた」「仕事や観光などで行ったことがある」という来訪経験がある回答は20.9%となっています。

5頁では「「宇部市」から連想・イメージすること又は知っているもの」につ

いてまとめています。最も多かったのは「宇部興産・セメント」60.0%で、これはいずれの属性別の結果も同様です。次いで、「山口宇部空港」「ときわ公園」「石炭・炭鉱」「宇部かまぼこ」が上位となっています。

6頁、7頁は、その属性別の集計になりますので、御覧ください。

8頁では「宇部市というまちのイメージ」についてまとめています。全体では、最も多かったのが「市内に工場や企業が立地する工業が盛んなまち」40.8%、次いで「歴史的な名所や文化遺産が多い観光のまち」13.1%、「空港、港、高速道路、JRなど交通機関の充実した交通拠点のまち」が7.9%となっています。

逆に、「大学などの教育機関や研究機関が多い学術・教育のまち」は3.1%と少なく、宇部市が取り組んでいる「街なかの野外彫刻が印象的な芸術・文化のまち」も4.5%で、これらについては、今後PRして認知度を上げていく余地がおおいにあると思われます。

9頁は、その属性別の集計になっております。

10頁では「宇部市への来訪意向」についてまとめています。全体では「時間や機会があれば行ってみたい」が49.6%と最も多く、次いで「あまり行ってみたいとは思わない」が35.6%となっています。

属性別にみてもみますと、年齢が高い層や、来訪経験・認知がある人の来訪意向が多くなっています。

以上で説明を終わります。

(会長) どうもありがとうございました。それでは、ただ今の説明について何か質問があればお願いします。

(委員) 調査の内容というよりも、調査の方法が知りたいのですが、任意にサンプル数800を選び、100%回収したということなのですか。

(コンサルタント) 地域別に集計するために最低100~200件はないと全体の意向がつかめないため、まず、地域ごとに200、200、400というサンプル数を決めました。そして、その地域ごとにそこを居住地とするモニター登録者にインターネットを使って調査を依頼し、その地域のサンプル数が集まった段階で締め切ります。

この調査は、最近、観光調査によく使われる手法で、調査票を配って全国的に調査するのが難しい場合によく使われます。

(委員) 大体分かりました。モニター登録者なのでかなり意識の高い集団と考えてよいですね。

(コンサルタント) そうですね。それと、パソコンが扱えるという傾向もあります。

(委員) ありがとうございました。

(会 長) この調査では「カッタくん」は意識的に外してあるのですか。「常盤公園」に含まれているのかもしれないのですが、常盤公園とカッタくんのつながりが分かるのは宇部市民くらいで、カッタくんのほうが全国版ではないかと思うのですが。

(事 務 局) はい。常盤公園と重なるというところもあったのですが、ちょうど調査の前に、カッタくんが死亡したということもあって外しました。

(委 員) 4頁で、来訪経験があるという回答が20.9%というだけでは、認知度として満足のいくものなのかどうかは分かりません。例えば、山口県内や広島県や福岡県の似たような人口10万～20万人程度の市についてもインターネットで調査して、比較して、認知度の高い低いを判断する必要があります。

認知度というものは結構必要だと思います。というのが、知っている（認知している）ものはよく知っている（記憶に残る）からです。昔、宇部興産は甲子園のレフトスタンドに広告を出していたのですが、あれは非常にいい宣伝になるとみんなに言われたものですが、宇部興産の隣にどこの会社があったか誰も知らないのです。知っているとか知っていないとか、関係があるとか関係がないとかによって、ひいきになる、情が移ってくるということがあると思います。

だから、認知度はどこで満足するかとか、外に発信するか、そういうことを考える必要があります。

この調査はインターネットなので、お金はかからないのですよね。地方の都市がどのようにしてよそから知られているのか、そういう分析ができればやってみたらどうでしょうか。

(委 員) 今言われたように、比較対照する必要があります。例えば、類似都市とか、中国地方で周南と宇部はどうなのかとか。中国地方の観光協会などが先日そういう資料を出していますから、そういう参考資料を使ってもらってですね。県は、産業観光課がそういう資料を持っています。そういうものを使わないと相対性が全然無いので、宇部の認知度が低いのか高いのか分かりません。

また、設問の仕方ですが、8頁の「宇部というまちのイメージ」で「街なかの野外彫刻が印象的な芸術・文化のまち」が4.5%で上から4番目なのに、5頁の個別の集計だと、「現代野外彫刻展」は首都圏0%となっています。その相関関係が調査の中に全然出てきていません。

それから、宇部市の「緑と花のまち」のイメージを問う設問が全然なかったのは非常に残念です。

(会 長) ほかに質問はありませんか。

( 意見なし。 )

(会 長) 無いようですので次の議事に移ります。「基礎調査報告（追加分）について」、



事務局から説明をお願いします。

### (3) 基礎調査報告（追加分）について

(事務局) それでは、基礎調査報告ですが、前回の会議でいったん中間報告という形で報告しましたが、その後調査項目を追加しました、具体的には資料3の14頁以降になります。それでは、ランドブレイン社から説明します。

(コンサルタント) では、引き続き説明します。基礎調査報告の14頁「(9) 財政」の項目から説明します。

上の表にありますように、財政力を量る分析項目として、財政力、将来負担の健全度、公債費負担の健全度、定員管理の適正度、給与水準の適正度、人件費・物件費等の適正度、財政構造の弾力性という7つの指標によって他都市と比較し、宇部市が今どういう状況なのかを分析しています。

その下の折れ線グラフをみると、宇部市の財政力指数は年々上がっています。平成19年で0.76となっており、財政基盤の改善が図られています。山口県平均や全国平均と比較しても上回っています。

そして、14頁の下や15頁で、レーダーチャートというグラフを使い、先ほど説明した7つの項目で他都市と比較をしています。比較した都市の平均を100とした場合に、赤いラインで示したのが宇部市の状況です。平均より外に広がれば広がるほど財政状況がよいことになります。

まず14頁の下の山口県人口10万人以上の都市との比較では、財政力、公債費負担の健全度、定員管理の適正度、人件費・物件費等の適正度で平均を上回っています。

15頁では類似団体と比較しています。類似団体は32団体あります。これは、総務省が人口規模や産業就業者の割合で分類したものです。

類似団体と比較すると、平均を下回っている項目が多くなっています。改善は図られていますが、更なる財政基盤の強化が求められています。

それぞれのグラフ中に点線で示したところは、給与水準適正度について直近の数値を用いた状況です。他都市の数値がまだ公表されていないので、他都市との比較はできないのですが、1年前の実線部分と比較してみますと外側に広がっていますので、この1年間で、給与水準適正度について、ある程度改善が進んでいる状況を示しています。

16頁では「将来指標推計」についてまとめています。まず「(1) 全国・山口県の将来人口の推計」についてまとめています。この推計は、国立社会保障・人口問題研究所で全国的に推計している結果を掲載しています。

全国の将来人口は、平成17年から平成22年の間に人口減少に転じると推計されています。実際には、平成20年現在では、既に人口減少に転じているといわれています。

山口県では、昭和60年以降人口が減少しており、今後も更に減少が続いていく

と推計されています。

17 頁以降、「(2) 宇部市の将来人口・世帯数等の推計」についてまとめています。宇部市においても、全国や山口県と同様、国立社会保障・人口問題研究所による推計結果を用いています。

18 頁に推計結果の図を掲載しています。今後も減少が続き、平成 37 年で約 155,000 人になるという推計結果になっています。

真ん中のグラフは年齢 3 区分の将来人口です。14 歳以下の年少人口、15 歳～65 歳未満の生産年齢人口が今後も減少していく結果になっています。65 歳以上の老年人口は、今は高齢化に伴う増加傾向にありますが、平成 32 年～37 年にかけては、減少していくと推計されています。

19 頁には、更に細かく 5 歳階級別・男女別の推計結果を掲載しています。

20 頁には、その 5 歳階級別・男女別の人口の平成 17 年の現状と平成 37 年の状況をグラフにして掲載しています。

21 頁では「将来世帯数推計」についてまとめています。これは、過去の世帯人員の推移を算出して、昭和 60 年から平成 17 年までの 20 年間の実績値をもとに、トレンド法によって推計しています。平成 37 年には約 70,000 世帯になると推計されています。世帯数についても、現在は増加傾向にありますが、平成 27 年から平成 32 年の間に減少に転じるという結果になっています。

22 頁では「将来就業者数推計」についてまとめています。これは、第 1 次産業、第 2 次産業、第 3 次産業の就業者数に分けて、それぞれの人口総数に対する割合からトレンド法によって推計します。平成 37 年には、第 1 次産業就業者数が約 1,300 人、第 2 次産業就業者数が約 14,500 人、第 3 次産業就業者数が約 54,500 人になると推計されています。

23 頁にその結果のグラフを掲載しています。

24 頁以降は「SWOT分析」についてまとめています。これまでアンケート調査、基礎調査などいろいろと資料を示しました。それを踏まえて SWOT 分析という分析の手法で、それぞれの戦略を出していこうとするものです。

SWOT 分析とは、もともと民間企業で商品開発の際に使われていた手法です。まず、企業なり、宇部市なりの内部環境の強みや弱みは何か、また、外部環境、すなわち全国のトレンドやニーズ、宇部市でいえば市民のニーズで、市にとって成長機会になるのは何か、逆に脅威になるのは何か、そういうものを現状の資料から整理していくものです。それぞれの英語の頭文字を取って SWOT 分析と呼ばれています。

この分析では、今まで示した現状に対して、宇部市の強みや弱みは何かという基本的な現状をきちんと整理し、地域経営の視点から、外部環境を踏まえて、強みを伸ばす戦略とは何か、弱みを改善する戦略とは何が考えられるのかという分析を行います。

25 頁以降に審議会の分野ごとの分析結果を掲載しています。これは、分野ごとに目指す方向性を示すもので、今後皆さんの意見を踏まえながら、この戦略の見直しや追加の作業をしていきたいと思えます。その方向性から、総合計画のまち

づくりの目標を設定して、今後の具体的な取組の検討材料にしたいと考えます。

25頁に都市基盤・生活環境、26頁に健康福祉、27頁に教育文化、28頁に産業振興の分析結果の例を掲載しています。

25頁を例に簡単に説明します。

まず、都市基盤・生活環境に関わる現状から宇部市の強みや弱みは何か、宇部市で関連して取り組んでいること、市民意識調査結果から評価の高いもの低いものは何か、という整理をしています。

次いで、宇部市の外部環境の要因を挙げています。トレンドや社会的背景として、基礎調査の前半でまとめている全国的なトレンドや社会経済環境について、宇部市にとって成長機会になるのは何か、脅威になるのは何か、によって分けています。もう一点、市民アンケートにおいて重要度・優先度が高いものは、市民のニーズが高いことから成長機会の項目に入れていきます。

このような整理から、真ん中の「成長のための戦略」「強化のための戦略」「改善のための戦略」「改革のための戦略」を導き出しています。

考え方としては、「成長のための戦略」は、外部環境の成長を活かして内部環境の強みを更に充実していくという戦略になると考えます。

都市基盤・生活環境の分野では、都市基盤が他都市と比べて整備が進んでいる、自然環境にも恵まれている、住みやすいと思っている市民が多いという宇部市の強みを活かし、外部環境としては、心の豊かさへの意識の高まりがあり、より質の高い居住が求められているという成長機会を活かし、誰もが住みやすく、居住性の高い都市づくりをもっと発展させるという例を挙げています。

成長のための戦略の二つ目として、地球環境への意識の高まりという外部環境を活かして、環境の取組であったり、環境分野での協働意向が高いという宇部市の強みを活かし、もっと環境保全や美化に取り組み、協働をテーマに全市的な環境都市を目指していく必要があるということを示しています。

「強化のための戦略」は、内部環境の強みを強化して外部環境の脅威に対抗する方向性を探っていくという戦略になっています。例では、脅威として地球規模の環境問題があり、これに対抗して宇部市の強みである豊かな自然環境の保全管理を強化していき、それによって更なる自然破壊を抑制するという戦略を示しています。

「改善のための戦略」は、外部環境の成長機会を活かして宇部市の弱みを改善する方向を探っていくものです。例では、宇部市の弱みである、人口減少、高齢化、中心市街地街の衰退に対して、ライフスタイルの変化や環境意識の高まりという成長機会を活かし、街なか居住を推進するという方向性を示しています。

改善のための戦略の二つ目として、環境意識の高まりという成長機会を活かして、宇部市でも不便という意見が多くなっている公共交通の利用を促進していく、ただ単に公共交通の利用を増やしていこうというのではなくて、環境意識が高いという成長機会を生かしていく必要があるという戦略を示しています。

「改革のための戦略」は、外部環境の脅威に対抗するために、宇部市の弱みを改革していくという、取り組むにはかなりハードルの高い取組になります。ただ、

それを放っておくことは難しいため、そのためにどのような取組が必要かという戦略になると思います。例では、人口減少、高齢化が進む中で、まちの魅力、にぎわいのある都市空間を創ることによって、若者が住みやすいという意向が少くないという弱みを改革し、住みやすさ意識を高め、若者の流出を抑制するという戦略が必要であるということを示しています。

今、都市基盤・生活環境について説明しましたが、他の分野について同じような考え方で整理をしています。

4つの分野に分けていますが、分野が広いため、それぞれの内部環境・外部環境の要因についてすべて網羅されていない、整理できていない状況です。戦略についても、ひとつの例ということで、今後皆様の意見も聞いて、もっとこんな戦略があるのではないかということを検討していきたいと思います。

以上で説明を終わります。

(事務局) 事務局から補足をします。

まず、財政状況については、14、15頁にデータを示していますが、これは平成19年度普通会計決算をもとに現状を説明しています。今後どうなのかということについては、来月に次回の審議会を予定していますが、この審議会の中で、市財政の中期展望という形で中期的な見通しについて別途説明をする予定にしています。

また、16頁以降の将来の指標の推計については、18、19頁に宇部市の将来人口として、社会保障・人口問題研究所が公表したデータを掲載していますが、これは推計値のみです。

今後、審議会においては、この推計値をもとに、目標年度平成33年における基本構想上の目標人口をどのように設定するか、又は目標人口そのものを設定しないのかを、別途議論していただきたいと考えています。これについては、改めて議題として提出する予定です。

最後に、SWOT分析については、今日示した資料は、内外の環境の要因の仕分け、目標達成のための戦略として、25頁から具体的に資料を作っていますが、これはランドブレイン社からのひとつの提案と受け止めていただきたいと思います。

今後SWOT分析を完成して、導き出された戦略から、基本構想において、各分野ごとの目標設定の検討の題材として使っていただきたいと思います。

具体的には、各分科会で審議を進めていく中で、この内容について意見交換しながら最終形を作っていければと考えています。

分科会には市からも担当部の職員が同席することとしていますので、職員とも意見交換をしながら内容を詰めていければと考えています。

以上です。

(会長) どうもありがとうございました。それでは、ただ今の説明について何か質問があればお願いします。

(委員) 前回、議論に出たのかもしれませんが、第1次、第2次、第3次産業のうち、第1次産業の就業者は減っていている、第3次産業の就業者は増えている。これはどこの市町村でも同じ傾向なのかもしれませんが、本当にそういう方向を目指していいのかを考える必要があるのではないのでしょうか。

(コンサルタント) 今回の資料については、推計ということで、今後こうなっていくだろうという傾向を示したものです。実際、衰退しているところもあり、今後、逆転していかねばいけなところもあると思います。これについては、宇部市としてどのような方向性を目指すのか、今後、分科会で戦略を検討・審議していただく際に、意見をいただければと考えます。

(会長) 資料を詳しく見ていくと、すべて説明が必要になってくると思いますが、これについては、各分科会で、使える資料については、より詳細に市に問い合わせていただきたいと思います。ざっとした傾向はこの中に出ていると思います。

どういう方向を目指すのかが、この計画の最大の任務だと思いますが、今日のところは結論は出さなくてもいいと思います。各分科会でそれぞれの立場で議論していただき、最後に審議会としての方針を出していけばいいと思いますので、今日の説明はこの程度にして、次に進みたいと思います。

では、事務局からほかにありましたらお願いします。

#### (4) その他

(事務局) 2点あります。

まず1点目です。資料4をお配りしていますが、これは、これまで報告・説明した調査以外に実施した調査の内容をまとめた資料です。3つ内容があります。

1つ目が「著名者インタビュー」です。これは、まちづくりに関わりいろいろな分野で活躍している方々に、今後の宇部市のまちづくりの方向性についてお伺いし、提言いただいた内容を要約したものです。

北川正恭さんは、早稲田大学大学院の教授で、昨年9月に「まちづくり講演会」として文化会館で講演いただいた内容をまとめたものです。

2人目は、日本政策投資銀行で活躍されている藻谷浩介さんで、全国的にまちづくりの講演にまわられています。昨年宇部市でも、中心市街地のまちづくりという内容で講演いただいております。

それから、藤野完二さんは環境省の環境カウンセラーをされている方で、宇部市が環境首都コンテストにずっと応募していますが、その関係で宇部市のことをよく御存知の方です。

藻谷と藤野さんのお2人には直接お会いして、お伺いした内容をそこにまとめています。

2つ目は「団体ヒアリング」です。これは、市内でいろいろな社会的活動をさ

れているNPOなどの団体を対象に、昨年、まちづくりに対する提言を募集したところ、3つの団体から応募をいただきました。各団体にヒアリングを行いまして、それぞれの団体から具体的な提言をいただきましたので、その内容を整理したものです。

3つ目は「市民提言」です。市民の皆さんに、新総合計画の策定に対して、求める都市像と具体的なまちづくりについての提言を募集したところ、3人の市民から応募をいただきましたので、その内容をそのまま転記したものです。

資料4の具体的な内容の説明は省略させていただきますが、それぞれ目を通していただき、今後の計画策定の参考にしていただければと思います。

2点目は、次回の第4回審議会の日程についてです。

次回の会議では、市財政の将来見通しとしての中期展望と、先週終わりました市民ワークショップの概要と提言の内容について、説明をしたいと考えています、日程については、次回まであまり時間もないことから、あらかじめ正副会長等と調整し、2月26日の木曜日、午後1時半から開催する予定ですので、よろしくお願ひします。琴芝の宇部市総合福祉会館を会場として予定しています。委員の皆様には改めて文書でお知らせしますが、あらかじめ予定をいただきますようお願いいたします。

以上です。

(会長) どうもありがとうございました。それでは、ただ今の説明について何か質問があればお願いします。

(意見なし。)

(会長) それでは、時間がまだあるようですので、簡単に差し支えありませんので、既に会議を開催した分科会があれば、開催状況の報告をお願いします。

(委員) それでは、教育文化分科会を1月16日に市役所で行いましたので報告します。  
分科会の中で出た意見としては、まず、地域の行事や活動をおおいに活用しようというものでした。子供たちのためには、それが大切であろうということです。  
そのときに、学校の教師が地域の活動に積極的に参加しているかという委員からの質問が出ましたが、教育委員会から声かけはしているが、強制はできないので、出られる人が出ている状況であるとの回答でした。

また、地域の行事では、今日の資料にも出ましたが、若い人への呼びかけが大切であるという意見が出ました。

ほかの意見として、アメリカに在住して帰国した経験のある委員から、アメリカに行く前と、何年かして帰ってからでは学校教育の変化が目についたとの意見がありました。それは、以前の教師は教師自身が学校教育に誇りをもって教育していたが、そういう意識が薄れていったのではないかというものでした。

教育以外では、常盤公園のアピールがもっと必要であるという意見が出ました。

(会 長)      ありがとうございます。ほかの分科会から、それ以外に意見はありませんか。疑問点でも差し支えありませんので、何かありましたらお願いします。

(委 員)      資料4の関連ですが、これから分科会でいろいろなことをまとめても、結局、この中に集約されているように思います。有識者から話を聴いて、いろいろな意見があった訳です。結局、それに似たようなことを挙げていく、そういう議論になっていくと思います。

既に、問題点はかなり指摘されている訳なので、中期的・長期的な考え方のベースとして、いろいろな選択肢があるが、その中でどうやっていくのかという論点を少し整理してもらわないと、議論が発散するだけになるような気がします。

(会 長)      その点については、分科会で議論するにあたり、事務局が、ある程度準備していると思います。その内容でよしとするか、そうではないとするかは各分科会の判断になると思いますが。そのために市の担当職員も参加してもらって審議することになっています。そうしないと、なかなか、結論がどこにいくか分からないことになってしまうでしょうからね。

(委 員)      我々の審議会で何をするかということについて、最初に説明がありましたので、確認なのですが、基本構想を策定するに当たって、各分科会でそれぞれの担当のところをいろいろ議論し、調査結果や学識者の提言を踏まえて、将来目標・将来展望の文章表現を作っていくという認識でよろしいですね。

(事 務 局)      具体的な文章を白紙の状態から各分科会で作るということは、理想としてはそれが一番よいのですが、現実問題としてはなかなか難しいと考えられるため、事務局が、たたき台といいますか原案を各分科会に示すこと考え、今準備をしています。当然、審議会に示す前には、市の内部でも検討する必要がありますので、今日の段階はもとより、次回の審議会でも間に合うかどうかは分からないのですが、お時間をいただいた上で、審議会に案を示して議論していただくことを予定しています。

それから、今後の分科会の議論については、基本的には基本構想の案を答申するという審議会の役割を前提とすると、基礎調査やSWOT分析などの現状の分析の中から具体的な戦略を議論し、どういうまちにすべきかという10年先の方向性について各分野ごとに一本にまとめることを、2、3回かけて文章表現も含めて議論をしていただきたいと思います。

(委 員)      そういうことになると、これからの議論の進め方として、分科会で議論したものを集約する中で総合計画の全体像を作っていくのですか。それとも、全体的に市がビジョンを示されるのですか。

例えば、総合計画が最初にできたときに、非常に分かりやすかったのは「20万

都市構想」です。20万人にするんだという考えに基づいているいろいろ動くというイメージです。今回はそういう大きなビジョンはなくて、分科会からの積み上げでまとめて大きなものを作るといえることですか。

方向性がある分科会で議論をするのか、分科会で積み上げたもので全体像を作っていくのか。どちらかを、はっきりさせていただけますか。

(事務局) 答えにならないかもしれませんが、両方あり得ると考えています。

当然、20万都市構想を打ち出すのかどうかというようなことは、審議会全体で議論しなければ結論は出ないと思います。

人口の推計値をデータとして示し、将来的にこれだけの人口になる、これだけ減ってくるという想定の中で、目標としては幾らの人口を目指そう、それに向けてどういうまちづくりをしよう、基本構想はそういうものであるべきだ、今までの総合計画はそういうスタンスで作ってきました。

しかし、全国的な人口減少の中で、全体の総数としては、推計値より上の数値を目標にしても、実際にはどうかというところがあります。今までの基本構想にしても、実際に20万人に届いているか検証してみると、届いていないという現実があります。目標値をおかないのも選択肢の一つです。

現状の推計値、約162,000人に対して、目標値170,000人とおいて、その差8,000人をどうする施策で何人積むのか、積み上げのような形が必要になってくるでしょうが、そういう要素があるか、積み上げる意味合いが重要かどうか、目標人口をどうするかということ、後日、審議会に提案をして議論していただきたいと、先ほどお話したところです。

先ほど指摘がありましたように、全体の総数としてはそうですが、第1・2・3次産業別の人口については、もっとこういう方向を目指そうという考え方もあると思います。

そのような全体部分の議論がある一方で、各分野ごとの議論については、分科会に分かれたほうが細かい議論ができるという会長の御提案で、分科会を設けましたが、その部分については各分科会の議論を尊重し、まちづくりの目標はそれぞれの分野で挙げていただきながら、それをトータルした「求める都市像」として、全体として宇部市の将来目標としてはこういう目標でいきたいということについては、審議会全体で議論いただきたいと考えています。

(委員) 基本的なことなのですが、具体的に教えてください。最初に第三次宇部市総合計画書を配付いただきました。その中に、基本構想と基本計画（次期計画では実行計画）があるのですが、この会では、どの分野を具体的に作っていくのですか。

例えば、基本構想だけなのか、それともその下の実行計画まで含むのですか。実行計画まであれば、分野別に問題がいろいろと個別に出てきます。

今回の総合計画は第三次のような形でないのかもしれませんが、もし、イメージができていなければ、前回の形と大体同じなのか、全く違う形なのか、少し具体的にお話いただくと、今後、分科会で話す内容も、細かい点まで話すのか、



おおまかなイメージだけで済むのか、その辺りをはっきりすることができると思います。

(事務局) 一番基本的な質問かと思います。事務局としては、審議会の発足のときに説明したつもりではありますが、説明不足だったようですので、改めて説明します。

結論から言いますと、市長から審議会に諮問している内容は、新しい総合計画のうち基本構想部分のみです。基本構想をこのようにすべきだという答申を市長にお返しいただきます。

それを受けて、実行計画（今までの基本計画）という名称で、具体的な取組を入れた計画をつくる訳ですが、これは12年間の基本構想の方向性を踏まえて、市長の任期を意識した前・中・後期の4年づつの計画期間で作ります。

すなわち、答申いただいた内容で市長が議会に提案して基本構想を策定し、その中で特に優先順位の高いものを選択して、前期4年間で具体的に何をしていくかについては、行政側が来年度いっぱいかけて作っていくことになります。

お手元の第三次総合計画書でいいますと、基本構想としては、具体的には9頁から11頁にかけて、全体で審議していただく内容になる「都市づくりの理念」「求める都市像」、そして、その下に「まちづくりの目標」が入っています。

「まちづくりの目標」は、第三次計画上のものですが、分野ごとに5つの柱があり、今の分科会もこの分野ごとに分かれています。この「まちづくりの目標」の部分を含めた基本構想の答申案を、この審議会で作っていただくということになります。

(委員) 今、具体的にいわれましたが、9頁から11頁までのイメージでよろしいんですね。ということは、漠然とした内容になると理解してよろしいですね。

(事務局) 基本構想の内容は1頁から13頁までですが、その中心部分は9頁から11頁までになります。12年間のまちづくりの方向性ということで、このような文章表現になると思います。

(会長) 分科会は私の提案ですが、これは、全体会議だけではほとんど発言もできないし、審議会の委員として自分の意見を言えなかったら意味がないからです。

ぜひ、各分科会で、これだけは実行してくださいという目玉を作ってください。あまりたくさん提案すると実現できはしませんから、1つ2つ、多くとも2つでしようね。そういうものを、審議会の委員としての意見はこれですと市長に答申すれば、市長はそれを議会に提出すると思います。

本当をいえば、市の作った原案を読みあって、これでいいだろうとするか、あるいは、問題があれば、このようにという意見を審議会で吸い上げて多少修正するというでいいと思います。

しかし、それでは、市の作った原案が出て、審議会で委員は大多数が賛成、委員の面々これこれ、宇部市の常識派が確認しているので間違いはない、というこ

とで終わってしまいます。それを防ぐために、目玉を作って、ぜひこれだけはやろうじゃないかというものを各分科会を出していただきたい。それだけでもすごい進歩した議論になると思います。

それでは、まだ意見はあろうかと思いますが、分科会の時間になりましたので、全体会議はこれで終了としたいと思います。では、事務局よろしくお願いします。

(事務局)      ありがとうございました。分科会につきましては、会場を2階の第3及び第4会議室に移動させていただきたいと思います。生活環境分科会及び健康福祉分科会は第3会議室、教育文化分科会及び産業振興分科会は第4会議室において、それぞれ開催しますので、各会場に移動をお願いします。

また、分科会においては、必要な協議が終わり次第、分科会ごとに順次解散とさせていただきたいと思いますので、よろしくお願いします。

それでは、事務局の職員が会場まで御案内しますので、準備をよろしくお願いします。